

『リトルマーメイド』 名古屋公演担当営業



劇団四季には俳優、技術スタッフだけでなく、公演を行うために様々な業務を担う経営スタッフも働いています。その中でも営業部は、より多くのお客様に感動を届けるため、マーケティングを行い、学校や企業など、団体のお客様にチケットを販売するのが主な仕事。特に「公演担当」と呼ばれる役割を担う営業部員は、公演計画の他、宣伝戦略や予算の立案、劇場イベントの企画等も行う公演の「プロデューサー」です。

1月10日（水）、名古屋四季劇場でイベント『『リトルマーメイド』ミュージアム』が実施されたこの日、『リトルマーメイド』名古屋公演の公演担当を務める大島愛に一日密着しました。

9:30

1 営業部は朝9時30分始業。営業部のオフィスがある名古屋四季劇場に大島が到着し、タイムカードを押している時、チケットボックス担当のスタッフが「おはようございます！」と出社。劇場では他部署のスタッフとも顔を合わせることが多く、コミュニケーションを密にとれるのだという。



劇場で一緒に働くスタッフに挨拶する名古屋営業部・大島愛(左)。



2 オフィスに荷物を置き、すぐに名古屋オフィス全体会議へ。営業部だけではなく、マスコミを通じ四季の作品をPRする広報担当や、劇場の管理・運営を担当するスタッフも同席し、劇団全体の情報を共有する。

名古屋営業部部長・中藤充彦(左)が中心となり、全国各地のチケットの売れ行き、劇団の各部署からの連絡事項などを確認する。

10:10

団体のお客様に観劇のご案内をしてチケットを販売するのが営業の主な仕事だが、それだけではなく、より多くのお客様に劇場にお越しいただけるよう、イベントの実施を検討し、率先して準備も行う。

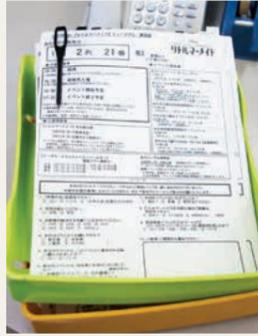
この日行われる劇場イベント『『リトルマーメイド』ミュージアム』は「舞台上で使われている衣裳や舞台装置、小道具などの秘密をお客様にお伝えしたい！観劇をより楽しんでいただきたい！」と営業部内でアイデアを出し合った企画だ。俳優や技術スタッフたちが博物館の解説員のように、普段舞台を観ているだけではわからない細かなこだわりを説明する。毎日のように営業部、俳優、技術スタッフで打ち合わせを重ね、内容を検討してきたという。



スタッフミーティングでは、一緒にイベントを作り上げてきた技術スタッフへ改めて「よろしくお願いします」と挨拶。

12:45

1 開場と同時にイベントの受付を開始。今回は当日観劇のお客様が参加できるイベントのため、受付前には長蛇の列が。イベントに興味を持ってくださったお客様に、イベント内容を説明し、参加証を手渡しする。200人を超えるお客様がイベントへ参加されることになった。



当日手渡された参加証。より多くのお客様に劇場へ足をお運びいただけるよう、今後のイベント情報や東海地方での公演情報が記載されたこの参加証は営業部員の手作り。

2 ほっと一息、お昼休憩の時間。今日のお昼はサンドウィッチと野菜ジュース、そしてコーヒー。「今日はイベントもあるのでデスクでお昼ですが、営業に出たときに外でご飯を食べることが多いですね。お気に入りのお店を見つけるのを楽しみにしているんです！」



14:00



オフィスを出て、外回りへ。営業部が訪問するのは企業や学校、官公庁、病院などの団体のお客様。企業の親睦会や学校の芸術鑑賞などで四季の作品を観ていただけるよう、ときには遠方に出張して、1日20件ほど訪問することもあるという。

入団7年目。お客様との何気ない会話が楽しいという大島も、入社したばかりの頃は悩みがあったそう。「思うように提案ができなかったんです。こちらの思いが一方通行になってしまっていて。そんなとき、上司に『100件の営業先があれば100通りの提案がある』とご指導いただきました。それからはお客様の要望を引き出し、それぞれのニーズに合った提案をするよう心がけています」。

特に印象に残っているエピソードを尋ねると「初めて団体予約をとれたときのことは記憶に残っています。名古屋市内の大学へ営業に行っていたのですが、なかなか学生の皆さんに興味を持っていただけなくて……。ようやくあるゼミで観てくださることになったのですが、ちょうど観劇日が私の誕生日！ご縁を強く感じました。今でも予約を取った日付とその詳細を記したメモは大切に持っています」。初めてチケットをご購入いただいたときの気持ちを力に、お客様のもとを訪ねる日々だ。

15:00

すでに観劇が決定しているお客様のもとにも足を運ぶ。公演チケットを直接お渡しするためだ。当日お座りいただく席の位置を伝え、購入いただいた枚数のチケットがきちんとあるかどうか、お客様にも数えていただく。お客様に快適にご覧いただけるよう、チケット購入後の丁寧なフォローも営業の仕事だ。



オフィスに戻ってくると、さっそくお客様から電話が。『リトルマーメイド』の観劇を検討されており、席があるかどうか確認したいとのこと。和やかにお客様と話をしながら、慣れた手つきで状況を確認。予約をしていただくための書類を作成する。外回りやイベントの合間にもお客様からの電話が相次いだり、ひとつひとつの案件に丁寧に対応していく。



15:30

10:30

スタッフミーティングを終えたあとは、営業部員のみが集まる営業会議に参加。今後どのようなお客様にどんなアプローチでご案内していくのか、部内で細かく検討していく。『リトルマーメイド』については、公演担当の大島が中心となって、各営業部員の案件を確認。作品に興味を持っていただけそうな学校団体や企業、地域の団体などをひとつひとつチェックし、「きちんとお客様のニーズを考えてみて」「このお客様にはこんな提案をしてみたら」など、意見を出し合う。大きな団体のお客様の観劇が決まったことに対しては、そのプロセスを部全体で成功例として共有する場面もあった。

また、本日のイベントの流れも営業部内で再確認。受付やお客様の誘導なども営業部員が行うため、それぞれがどんな役割を担うのか、本イベントの担当である出口綾葉が説明する。入団3年目、今回イベントを担当するのが初めてだという出口に対し、先輩からは「お客様にこんな声掛けをしたらどうかな」などの助言が飛び出した。



会議後、「念のためもう一度、他のメンバーとイベントの最終確認をしておいてね」とさらに大島からアドバイスが。今まで名古屋や静岡の営業部で積んできた経験を生かし、出口(左)をサポートする。

12:00

1 カンパニーが集まり、開演前に行う定例の俳優ミーティングへ向かう。新しいイベント企画についての相談、チケットの発売状況などを報告するために、俳優ミーティングにはたびたび参加しているという。



「より多くの方に『リトルマーメイド』の魅力をさらに知ってもらいたいと思っています。本日はよろしくお願ひします」と出口から挨拶。どのくらい多くのお客様にご参加いただけそうか、予測人数も伝える。



2 俳優ミーティング後、公演委員長・伊藤潤一郎、動員担当・田島康成、舞台監督・大平康治に声をかけ、今後、『リトルマーメイド』名古屋公演を全国のお客様にどのようにPRしていくかを相談。「より多くのお客様に『リトルマーメイド』を観ていただきたい」という想いのもと、俳優、技術スタッフ、経営スタッフ一丸となって臨んでいるのだ。

特集
四季で輝こう

17:30



注意書きや小道具の説明文のボードも営業部員の手作り。説明文はイベント担当の出口が考えた。

1客席でのイベントが終了。展示された小道具を、お客様がひとつひとつ興味深く覗いていく。「見て！ここにイルカの絵が描いてあるよ！」「この小道具、あのシーンに出てきたやつじゃない？」間近で作品の世界観を感じることもできる「ミュージアム」にお客様も大興奮のようだ。



2小道具を片づけ、お客様からのアンケートを集計。このアンケートは営業部員だけでなく、俳優、技術スタッフにも読んでもらっているそう。ひとつひとつじっくり読み進めていく時間は、大島をはじめ、イベントに携わる俳優・スタッフの楽しみだという。「営業部員の意見をまとめて、カンパニーと話し合いを重ね、作り上げてきたイベントで、お客様が楽しんでいらっしゃる様子を見たり、アンケートで『また来たい!』というご感想をいただいたりすると、次も頑張ろう!と思えるんです。準備はとても大変でしたが、やってよかったと思います」。



名古屋では2月23日(金)にも「『リトルマーメイド』ミュージアム」を実施予定。「今回お客様からいただいたご意見をもとに、よりよいイベントにしていきたいと思います」と大島は意気込む。

18:00

外回りにイベントにと忙しい大島の1日もこれで終了だ。入団前はあまり舞台を観たことがなかったという大島。今は『リトルマーメイド』名古屋公演の魅力伝え、ひとりでも多くのお客様に劇場にお越しただけのよう、名古屋営業部の中心となって働いている。そんな大島が今後目指すものとは……「舞台を観たことがない方、劇場へ行くのはちょっと敷居が高いと思っていらっしゃる方などに、劇場に来ていただいて、ぜひ舞台の素晴らしさを体感してほしいです。作品をPRするための新たな媒体を探したり、営業チーム全体の活動の仕方を工夫したりするなど、公演担当にしかできない仕事を通じて、お客様の『観たい』のきっかけ作りをしていきたいと思っています」。

3月3日(土)に迎える日本公演通算2,000回、そして4月7日(土)の日本上演5周年に向けて、特別カーテンコールや「みんなで歌おう『リトルマーメイド』」などの新たな企画も準備中(詳細は49頁をチェック)。より多くのお客様に喜んでいただくため、名古屋営業部の奮闘は続く。



特集 四季で輝こう

16:30

1昼公演終了後、速やかに舞台の準備を整え、一旦ロビーでお待ちいただいていたお客様に再入場のお声掛け。「『リトルマーメイド』ミュージアム」がついに開館だ。



伊藤潤一郎が「『リトルマーメイド』ミュージアム」館長として、進行を担当。舞台を観ているだけではわからない作品の秘密に、お客様からは「へー!」という驚きの声。お子連れ、お孫さん連れの方から、カップル、お友だち同士まで、幅広い層のお客様にご参加いただいた。

「『リトルマーメイド』ミュージアム」の様子は編集後記 WEB 版で!

「リトルマーメイド」名古屋カンパニーが一丸となって作り上げたイベントの様子を編集後記 WEB 版でご紹介。イベントでどんな話が飛び出したのか……気になった方は下記の URL もしくは QR コードからアクセス! ユーザー名とパスワードを入力し、ぜひチェックしてみてくださいね。

URL : <https://s.shiki.jp/m/laharpe1802> ユーザー名 : shiki
今月のパスワード : chocolate



2その頃、劇場の2階ロビーでは小道具展示の準備が行われていた。今回の「『リトルマーメイド』ミュージアム」では、イベント後に、舞台上で登場する小道具を間近に観ることができる展示スペースを用意。営業部員と小道具スタッフが協力して、慎重に並べていく。

